

→ 素よりフツマ

「ハトバール」 ●「アハインマンモデル」→ハトバール初め!!の4年は全員出場希望。ちょっと多すぎるので、くん、くん、くんには5年4人に絞って8名でした。やなせたかし作品には、平和を願う深い意味がある人ですね。その思いながら聴くとうと。小沢の人たちがいっせいな声でいっせいに唄ってくれるのもほほえましい。でもみんなとっても上手でびっくりでした。

●世界にひとつだけの花、なかなか練習を積み重ねる時間がなく、練習でも途中で止まってしまうので「どうする?」とことごとくが相談した結果、「トドソソマニ」と歌いながら「やっちゃダメ?」(音)気味でできたらいいんじゃない?となり、本番を迎えました。音かきまわらなくても、自分たちでメロディーを唄って軌道修正、最後までやり切った。きれいなハーモニーを作ることができました。自信ついたので!!

●「恋」6年生5人衆のハトバール。「もうおれたちは完璧だよ!!」と言うので、リハーシを聞いたところ、「あん?」ちよとちよと、なんかゆるゆるで、止まりかたのオビゴールみたいだね。たけやに上手だけど、「6年なんだからもっと感動できるレベルまで持って行ってよ〜!!」と高度な要求を出してみました。そこから10日後の本番。「シューレシューラ」2番目の「ラ」でスピードが速まるよ、と意識したまっちゃんに命じて、今まで一番はやいペースでハトバールが響き、シーといた会場で、5人が集まって奏でたメロディーはとて美しかったです!「3年連続で、おれには最後の音が無い!!」と、くん。(ゴメン、トマはまたヨ〜)ラストは満面の笑みで両手を振っていましたね。とても仲のよい6年生、心を合わせたハトバールは、みんなの心に響きましたね。

「リコーダー」 「小さな恋のうた」17名という大人数。1パート2パート各7人ずつ、クラス3年生が3人「やった!!」と参加してくれたので、少しカンタンにした3パートの三部合奏。伴奏CDのピアノに合わせて、テンポがとっても早く、取り組み始めた当初は、6年生でも苦勞するほど、あずかい曲となりました。(勝手にゴメン)。これはハトバールか、と思っていましたが、みんなが楽譜を家に持ち帰って!!と自ら練習に励んでくれ、土日をはさんで月曜日に来た時、とんとん吹けるようになっていました。土日はでも「リコーダーやろ〜♪」と、みんな大好きでピアノにぶつかっては。お互いに教え合って、リハーシには「ラッポー!!」と言いたいくらい上手に。本番では、お楽しみ会のことを出しものトリを飾って、見事な演奏をしてくれました。終わると「手汗やばいよ」「めっちゃ緊張したー!!」とくちりに言いましたが、みんな満足そうな顔をしていて、本当に充実していたよかったです。

「保護者のための」 6年生のみならず、息の合った演技やダンス、仲良くうらやましくいらい。この雰囲気は「土のはらうら」の、仲間意識を育ててくれますね。同学年のキズナは親も子も大切ですね。2つ目の、毎年こもたらがとて楽しくしている保護者の皆さんの劇(?)。今年もとて大かかりで楽しかったですね。コギルも本物かと思うくらい!!皆んなが大笑いして、会場全体が一体となる、このムードが大好きです。こもたらもみんな11ヶ月の時間を過ごせて、良かったです!! 係の方、お礼言っ頂いた方、そい見に来てくださった保護者の方、OBさん、運営さん、みんなありがとうごさいました!!

「その後の5・6年の宿泊は...?」 11313楽しくできました。詳しくは保護者のあはれほ〜可!!